

～ キッズサンガの今

そして、これから ～

鹿児島教区実践運動次世代部門(平成 24～25 年度)では、キッズサンガ推進と各教化団体の連携を深めるため「各教化団体連絡協議会」「各組サポーター代表者会議」などの会議を開催し、また教区内全寺院を対象としたアンケートを実施いたしました。

それらの会議やアンケートを通して明らかになった課題の1つが中高生から 20・30 代との関わりの希薄さ、いわゆる「若者とのご縁づくり」です。鹿児島教区内には寺院を母体とする多くの幼稚園・保育園があり、たくさん子どもたちとご縁が結ぶことができる環境にあります。しかし卒園や年齢が上がるにしたがってご縁が薄くなっていくようです。そして、それはそのまま仏教青年や若い世代の仏教壮年会・仏教婦人会の会員減少や若手不足にも繋がっています。「子ども・若者ご縁づくり＝次世代への取り組み」は、キッズサンガ運動や各教化団体の活動にとって共通の課題であるといえます。

アンケートからは「初参式で結んだご縁をそのまま放置してしまっている」「卒園児に対して特に働きかけをしていない」というような現状が見えてくると同時に、若者に対して積極的かつ地道に働きかけている寺院の活動も知ることができました。この度、次世代部門は、若者(中高生)たちへの働きかけとともに、その最初のきっかけとなる初参式の推進を提案いたします。

「中高生は忙しい」とか「若者がいない」と嘆く前に、卒園児たち、初参式などにお参りした赤ちゃんやその家族とのご縁ひとつひとつを大切にしていってみませんか。



若者とのご縁づくり

教区寺院の若者（中高生など）を対象に行われている行事を紹介します。

『第54回中学卒業壮行激励会』

鹿児島組 明信寺

平成26年2月21日(金)13:00～14:30

場所 明信寺本堂・門徒会館

参加者 中学3年生 57名 先生 4名

☆はじめる きっかけは何ですか？

昔は中学校を卒業すると、大阪や東京等へ集団就職される学生がたくさんおられました。当時は食料難の時代で、「少しでも栄養を取り、頑張ってもらいたい」との思いで、地域の皆さんと一緒に、旅立つ中学生を激励するために始まりました。

☆会をする上で、注意したことは？

多感な時に「いのちとは？ 常識とは？ 価値観とは？」を宗教の観点から話し、お寺で話を聞く意味や一日一日を大事に一生懸命生きることで、本当の幸せを目指してもらいたいとの願いを込めています。

☆感想

「人間はわからないことだらけ」ということが初めてわかった。そのことを考えながら、これからは生きてこうと思う。(中学生)
いつの時代も親の気持ちは一緒。「元気でいてもらいたい。頑張ってほしい。」そして、いろいろな節目でお寺に行ってもらいたいと思っています。(仏婦会長)
社会性・人生の経験を積む良い機会。何よりも伝統があります。これからも声を掛けてもらえれば、参加していきたいと思っています。(中学校の先生)

『寄せ書き・絵だより』

南薩組 光明寺

入学・卒業・結婚・転職・病気見舞などでの節目ふしめで絵だよりを書く

参加者 絵だよりの会 主催

女性の会、おわんの会等10名程度が参加

☆はじめる きっかけは何ですか？

高齢者の独居や、小中学校の統廃合が進むなど過疎地のお寺の抱える課題は限りなくあります。そこで、独居の高齢者を対象に「おわんの会」と称し、月1回女性の会手作りの食事会を始めました。「おわんの会」に出席できない方々へは、「絵だより会」が寄せ書きを出すようになりました。

☆会をする上で、注意したことは？

それぞれの特技を活かした会員が自ら楽しみながら参加すること、すべての団体が連携プレーし、情報交換することを大事にしています。特に「絵だより会」では、1人ひとりに誕生日だけではなく、保育園から就職まで節目節目に寄せ書きをだしています。

☆感想

「絵だより」は反響が大きく、今年度 84 名の方々に発信しました。お礼の電話や手紙が来たり、帰省中の中高生がサマーキャンプに参加してくれたりすると嬉しさが倍増します。また年間の出生が 1～2 名のこの地域で、初参式を受ける方は二桁というのも地道な活動のおかげかなと思ったりします。ここ数年、保護者の希望で始まったお寺での「半成人式」も恒例となりました。これからも地域に寄り添い、共に歩ませていただくお寺でありたいと思いますし、そのために後継者の育成も大きな課題です。(女性の会会長)



『青少年 冬の集い』

北隅組

平成26年1月5日(月)・6日(火)

場所 熊本県人吉市

参加者 中学生 2名 小学生 5名 スタッフ 3名

☆はじめる きっかけは何ですか？

北隅組では、夏の子どもキャンプを毎年開催し、20年以上続けている。最初中学生を中心とした取り組みで始まったが、現在では小学生の参加が中心となっている。以前より冬の時期にも集いを開きたいとの思いがあり、今回冬のコテージ宿泊やお寺参拝、自然体験等を通して、お寺を身近に感じて欲しいとの願いから中高校生を意識して計画を立て募集し開催した。

☆感想

冬休みを利用し開催したが、県外であり車の移動ということもあり10数名の募集を行った。それに応じて少人数の参加となり、中高生の参加も少なかった。しかし、夏のキャンプとはひと味違ういろんな体験ができる冬の企画になった。今後どのようなかたちで開催するか話し合い、より多くの中高生が集まれるよう企画し、お念仏の心がしっかりと伝わるような次世代育成を考えていきたい。

『園児のつどい』

南隅組

平成26年3月1日(日)9:30～12:00

場所 鹿屋市 ホテルこばやし

参加者 155名(組内の幼稚園・保育園の今年度卒園児)

☆はじめる きっかけは何ですか？

卒園してから、薄れていきがちな寺や園とのご縁を維持していくために組内寺院で協力して計画しました。

☆感想

合唱、合奏、劇や太鼓など、参加した9園すべてが出し物をしました。

日頃なかなか見ることがない他園の子どもたちの発表を見るよい機会にもなりました。お土産には、プトラグッズを配りました。通った園も違い、入学する小学校もそれぞれになりますが、「キッズサンガ(お寺の行事)」でまた会える！」とのメッセージを込め、またいつまでもお寺や園に親しみを感じてもらいたいと願っています。

『中高生のつどい』

祁答院組

平成25年8月26日(月)・27日(火)

場所 永照寺

☆はじめる きっかけは何ですか？

組のキッズサンガ部門の企画会において、「これまで小学生を対象としたサマースクールは毎年開催しているけれども、次のステップとして中学生を対象とした取り組みが出来ないだろうか。」という意見が出てきたのがきっかけとなりました。

☆感想

仏参・法話の後、話し合いで晩ご飯のメニューや買い出し等を決めてもらいました。最初は中々意見が出ず、初対面で緊張しているということもあるようで、話し合いになりません。今の中高生には互いの意見を出して話し合い、分担して活動するという体験は、余り多くないのではないかと感じました。また、寝食を共にするということも、今となっては貴重な体験なのかもしれません。参加者は会場となったお寺の門徒さんが中心になりがちです。知らないお寺に泊まりで参加するというハードルの高さを感じます。今後の課題は、参加者を増やすということ。結局のところ、親に対しても、子供に対しても、日常の中でご縁を作っておくことが大切だと感じます。2年目から高校生も対象に含めることにしました。

初参式のススメ

ご縁結びのきっかけとして、初参式を見直してみませんか？



赤ちゃんが初めてお寺にお参りする「初参式」は、ご縁によって恵まれた尊い“いのち”を阿弥陀如来さまの御前にて、縁ある方々がそろってお祝いし、感謝するご法要です。

ご回答いただいたアンケートからは、様々な勤め方や記念品・記念行事を知ることができました。また、初参式後のはたらきかけがなされていない現状も明らかになりました。

ご縁結びの最初のきっかけとなる初参式のあり方、そして寺院で初参式を行った後の繋がりを見直してみませんか。

きっと初参式を通して新たな仏縁が増えていくことでしょう。

～ 初参式の流れ ～

① まずはポスターを貼る

合同、個別の形の違いはありますが、寺院で初参式を行っていることを周知しましょう。ポスターをはじめ、様々な手段で知っていただくことがスタートです。



② お勤めは？

十二礼・重誓偈・讃仏偈が多いようです。あまり長いと子どもがぐずります。また、鐘を強く鳴らすと泣きだす子どもさんもありますので、ほどほどに。



③ ご法話をしましょう

できるだけ「おみのり」を伝えていただきたいので、短くてもご法話をしましょう。「初参式についてのご消息」の拝読や「いのちのであい」（本願寺出版社）に載せてある『いのちの不思議をみつめて』を法話のかわりによんでもいいでしょう。



④記念品や記念の行事は？

記念品紹介



子ども用式章・念珠



いのちのアルバム
(本願寺出版)



合掌人形



け は
華 葩



懐中名号



像の置物



オリジナル証書



花 束



赤ちゃん用絵本

赤ちゃん用絵本の紹介

- | | |
|--------------------|----------|
| 「くつついた」 | (こぐま社) |
| 「だるまさんが」 | (ブロンズ新社) |
| 「じゃあじゃあびりびり」 | (偕成社) |
| 「ぴょーん」 | (ポプラ社) |
| 「がたんごとんがたんごとん」 | (福音館書店) |
| 「もこ もこもこ」 | (文研出版) |
| 「いっしょにあそぼ ししまぐるぐる」 | (学研) |
| 「かおかおどんなかお」 | (こぐま社) |
| 「いないいないばああそび」 | (偕成社) |

記念行事紹介



お祝いのお斎



記念撮影



手型・足型



仏婦の手作りのお斎

記念品や記念の行事には、決まった形はありません。それぞれの寺院の特色を活かして、赤ちゃんやその家族のことを思ってそれぞれに楽しみながら工夫してみてください。

⑤初参式後 こんなご縁づくりをしています



子ども会の案内・子ども会
年間行事表などを渡して
います(手渡しや郵送)

4月の婦人会例会の時に
初参式名簿から小学
中学入学対象者を調べ、
お祝いメッセージを郵送し
ています

高校卒業者に腕輪念珠を
贈っています。
(各地域の役員さんを
通じて)



初参式にお参りした子
小学校に入学した子を
花まつりに招待しています



○さらに、初参式より前のご縁もあります

初参式前のお参り



初参式よりも前に「いのち」をめぐまれた時に行う
『慶びの法事』も考えられます。教区内でも実際
にお勤めしている寺院があります。この寺院では、ご
門徒さんからの要望がきっかけでお勤めするよう
になったそうです。また、合同ではなく個別に開催さ
れています。

少しでも多くの『慶び事』でお参りにきていた
だき、その後の初参式や七草などのご縁に繋がると
の思いからお勤めされているようです。



初参式でおわり……
になっていませんか？

そこで

「初参式からのご縁作り」
を提案いたします。

①初参式に参られた時に
ハガキを書く

お子さまが七草を迎える年に届きます。
ハガキにメッセージを書いてもらいます。



②寺院は「ハガキ」を必要年数
保管し投函する。



数え年で7つになる年に投函

投函年度ごとの
「ハガキ」入れ
を準備する。



③七草を迎える年に
ハガキが届く。



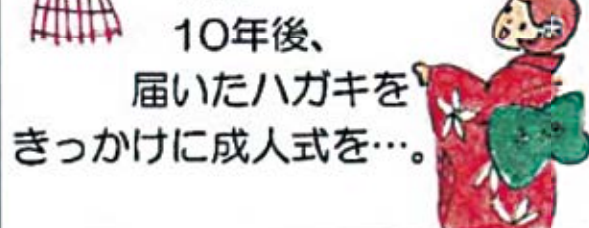
④七草祝いに参られる。



⑤七草祝いの時にハガキを書く。



⑥ 半成人式のときは
成人式を迎える自分に
メッセージを書いてもらい……



⑦こうしてご縁が続き、
さまざまなお祝い事
に参られる。



資料&ガイドブック

『ガイドライン』



2013年3月までの取り組みの成果や課題を総括し、キッズサンガをこれからも継続的に推進していくための指針を整理したガイドラインです。

(各寺院に配布済み)

『ガイドブック』



キッズサンガ運動の具体的な事例を紹介するガイドブックです。「これならできる！ やってみよう！」と思える事例が盛りだくさんです。いろいろやってきた「今」だから新たなヒントになると思います。(各寺院に配布済み)

『キッズサンガ全寺院「子どものつどい」』



「さあ、始めましょう」編と「おっ、できるかも！」編の2部構成のDVD。映像をみて、すぐにでも使えそうな実例が盛りだくさんです。(教務所にお問い合わせください)

GOODS

ポストカード

法要や法事など、折々に子どもさんやお孫さんを始めとする若い世代へメッセージを伝えていただきたいと思います。ご自由にダウンロードしてご利用ください。

鹿児島別院ホームページ <http://www.hongwanji-kagoshima.or.jp/postcard.htm>



ポラシール (教務所にお問い合わせください)

法語ポスター 8種類 (各寺院へ配付済み)



参拝の記念品として、小さいお子さんへプレゼントとして、いかがでしょう。



上段に法語、下段に意味を載せました。本堂をはじめ、色々な所に貼って、ご利用ください。大人も子どもも一緒に味わってもらいたいです。

教区実践運動「次世代部門」・キッズサンガアドバイザー・キッズサンガサポーターは、組・寺院各教化団体へ出向いて、キッズサンガ運動の理念や願いの説明、具体的なアドバイス・お手伝いをいたします。

キッズサンガアドバイザー

三島慶昭(南隅組・中央委員) 藤岡義尚(揖宿組) 藤谷亜太可(北隅組) 暉峻康明(東隅組)
白坂浩史(東隅組) 橋本美由紀(出水組) 大内妙華(鹿児島組)
工藤哲修(別院) 佐藤秀子(別院) 福崎光孝(別院)

各組キッズサンガサポーター代表者

藤善義文(鹿児島組) 亀井愛子(揖宿組) 藤 直亮(南薩組) 井上弘顕(川内組) 森尾義文(甌島組)
副 直子(祁答院組) 村上史之(伊佐組) 笠置孝淳(出水組) 岩野宏俊(東隅組) 濱上博幸(南隅組)
藤谷 真(北隅組) 田嶋弘典(南島組) 三坂真明(別院)

※各組キッズサンガサポーター代表者は、変更になる場合があります。

～ キッズサンガの今

そして、これから ～

鹿児島教区実践運動次世代部門(平成 24～25 年度)では、キッズサンガ推進と各教化団体の連携を深めるため「各教化団体連絡協議会」「各組サポーター代表者会議」などの会議を開催し、また教区内全寺院を対象としたアンケートを実施いたしました。

それらの会議やアンケートを通して明らかになった課題の1つが中高生から 20・30 代との関わりの希薄さ、いわゆる「若者とのご縁づくり」です。鹿児島教区内には寺院を母体とする多くの幼稚園・保育園があり、たくさん子どもたちとご縁が結ぶことができる環境にあります。しかし卒園や年齢が上がるにしたがってご縁が薄くなっていくようです。そして、それはそのまま仏教青年や若い世代の仏教壮年会・仏教婦人会の会員減少や若手不足にも繋がっています。「子ども・若者ご縁づくり＝次世代への取り組み」は、キッズサンガ運動や各教化団体の活動にとって共通の課題であるといえます。

アンケートからは「初参式で結んだご縁をそのまま放置してしまっている」「卒園児に対して特に働きかけをしていない」というような現状が見えてくると同時に、若者に対して積極的かつ地道に働きかけている寺院の活動も知ることができました。この度、次世代部門は、若者(中高生)たちへの働きかけとともに、その最初のきっかけとなる初参式の推進を提案いたします。

「中高生は忙しい」とか「若者がいない」と嘆く前に、卒園児たち、初参式などにお参りした赤ちゃんやその家族とのご縁ひとつひとつを大切にしていってみませんか。

